

緊急消防援助隊情報

令和元年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練の実施結果について

広域応援室・高知県実行委員会

令和元年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練は、「指揮本部・災害対策本部運営能力の向上」、「他機関連携の強化」、「地域防災力の向上」、「県内消防本部全体の受援力の向上」を目的に、高知県須崎市を主会場に次のとおり実施した。

1. 実施日

令和元年11月30日（土）・12月1日（日）

2. 実施場所

須崎市、高知市、安芸市等

3. 実施内容

(1) 訓練想定

令和元年11月30日8時30分、高知県南方沖合を震源とする地震が発生し、高知県内で最大震度6弱を観測した。

この地震により、高知市と安芸市を中心とする高知県内陸南部地域では、建物倒壊、火災、土砂災害等により人的・物的ともに甚大な被害が発生した。

高知県内の複数の消防機関は、消防相互応援協定に基づき県内応援隊を要請した。また、高知県知事は、被害が甚大であることから、高知県内の消防力のみでは対応が困難と判断し、緊急消防援助隊の応援要請を行った。

(2) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

今回は、2部構成で実施し、1部では被災地としての情報収集、共有、伝達及び緊急消防援助隊要請の判断等を主眼とし、2部では緊急消防援助隊の部隊配置、移動、増隊等の検討を主眼としてロールプレイング方式により図上訓練を実施した。

また、1部終了から2部開始までの間にブリーフィングの時間を設け、緊急消防援助隊の出動から進出拠点到着までの移動時間を短縮したことで、限られた訓練時間の中で緊急消防援助隊の要請から部隊配置、部隊移動、増隊要請の判断までの一連の動きの確認を実施した。

《今後の課題等》

- 緊急消防援助隊の要請については、迅速出動、南海トラフ地震アクションプランの適用対象外の想定としたが、今後、発生する確率が高いとされる南海トラフ地震に備え、南海トラフ地震アクションプランを適用

する想定での訓練も必要である。



安芸市消防指揮本部設置運営訓練（30日）安芸市

(3) 部隊参集訓練及び災害即応、夜間訓練

調整本部及び各指揮本部へと入る指揮支援部隊のヘリコプターによる参集訓練を実施するとともに、災害即応訓練を管轄消防本部の企画により県内4か所で4想定、夜間訓練を1か所で3想定実施した。

また、各訓練においては各指揮支援隊の統制のもと関係機関、各県大隊等が連携・協力した訓練を実施した。

《今後の課題等》

- 今回は、災害即応訓練場所とは別の場所に進出拠点を設置したが、状況に応じて進出拠点を設定せず、災害地へ直接進出する事も想定した訓練も必要である。

(4) 部隊運用訓練

メイン訓練会場では、ヘリコプターや「災害調査用マルチコプター」による情報収集訓練を実施し、その後、地元消防団、陸上自衛隊、災害救助犬と各県大隊が連携して土砂災害対応訓練を実施した。また、高知県内広域消防応援隊、海上保安部、高知県警察と各県大隊が連携して津波浸水救出訓練を実施した。更には、地震により毒劇物タンクが破損、毒劇物が漏洩した想定で、各県大隊による毒劇物対応訓練を実施した。

また、今回の訓練では各県大隊の救急隊を大隊から独立させ救急中隊を編成し、医療関係機関と連携し、医療活動及び傷病者救護訓練を実施した。



サテライト訓練会場では、航空自衛隊の大型輸送ヘリ（CH-47）による自動二輪及び人員搬送訓練、陸上自衛隊の多用途ヘリ（UH-1）による避難者救助訓練、海上保安部の巡視船と連携した訓練など、大規模津波避難・救助訓練を5会場で実施した。

また、無線中継車、V S A Tシステム等を使用し、各訓練の映像をメイン訓練会場に伝送する映像伝送訓練も同時に実施した。

《今後の課題等》

- 今回の訓練は、自然地形を利用したため、訓練会場が狭隘となり、一度に全車両の進入が困難であったことから、訓練車両を一時待機場所に待機させる等の制約が必要であった。しかしながら、自然地形を利用した訓練は実災害に近く、実践的で効果的な訓練であることから、今後も今回のように車両を訓練会場とは別の場所に駐車し、人員の搬送を行うなどの人員搬送訓練等を訓練内容に盛り込むことも検討すべきである。



津波火災対応訓練（30日・災害即応訓練）高知市会場

（5）後方支援活動訓練

- 後方支援活動として、感染予防を考慮した訓練を実施した。また、高知県と高知県石油協同組合との大規模災害時の協定に基づき、燃料補給訓練を実施し、相互の活動方法を確認した。
- 女性職員の訓練参加を考慮し、女性職員専用テントを設置した。
- 移動式トイレカーを設置し、被災地でのトイレ不足問題の解消について検証を行った。

《今後の課題等》

- 高知県緊急消防援助隊受援計画で定めている宿営場所を訓練会場として使用し、会場内での部隊配置等に対する検証を実施することができた。
今回は1か所で訓練を実施したが、今後は更なる部隊の受け入れを見込み、複数個所での訓練や、隊員の体調管理面から室内での訓練が必要である。



部隊運用訓練（1日）須崎市（土砂災害対応訓練）



部隊運用訓練（1日）須崎市（津波浸水救出訓練）

4. おわりに

高知県は南海トラフ地震の重点受援県であり、津波による被害想定が大きい特徴があることから、今回の訓練では、自然地形を利用した「津波火災対応訓練（30日・高知市）」、「土砂災害対応訓練」、「津波浸水救出訓練」、「津波火災消火訓練（1日・須崎市）」等を実災害に近い実践形式で実施検証した。また、これまでの様々な取り組み（災害時オペレーションシステム、災害調査用マルチコプター等）の訓練検証を実施することができ、大変有意義な訓練であったと考えます。

最後に、本訓練開催に際しまして、多大な御協力を賜りました中国・四国ブロック各県、参加消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室
TEL: 03-5253-7527（直通）